

## 会社概要

(2016年9月30日現在)

社名 トーカロ株式会社 TOCALO Co.,Ltd.  
 設立 1951年7月  
 所在地(本社) 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号  
 資本金 26億5,882万3千円  
 従業員数 単独 558名 連結 876名

## 子会社

日本 日本コーティングセンター株式会社  
 神奈川県座間市  
 中国 東華隆(広州)表面改質技術有限公司  
 中国広東省広州市  
 中国 東賀隆(昆山)電子有限公司  
 中国江蘇省昆山市  
 台湾 漢泰国際電子股份有限公司  
 台湾台南市  
 アメリカ TOCALO USA, Inc.  
 California, United States of America

## 役員

(2016年9月30日現在)

代表取締役会長 町垣 和夫  
 代表取締役社長 三船 法行  
 専務取締役 木村 一郎  
 常務取締役 久野 博史  
 常務取締役 黒木 信之  
 取締役 樽見 哲男  
 取締役 伊藤 義康  
 取締役 熊川 雅也  
 取締役 進 英俊  
 取締役(社外) 山崎 優  
 取締役(社外) 佐伯 武彦  
 取締役(社外) 吉葉 正行  
 監査役(常勤) 北秋 廣幸  
 監査役(常勤) 難波 吉雄  
 監査役(常勤・社外) 吉田 敏彦  
 監査役(社外) 中田 琢也

## 株式の状況

(2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,960,000株  
 発行済株式の総数 15,800,000株  
 (内、自己株式601,108株)  
 単元株式数 100株  
 株主数 4,764名

## 大株主

持株数(千株)

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 921  
 BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND  
 (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) 850  
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 835  
 トーカロ従業員持株会 832  
 CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY 815  
 トーカロ株式会社 601  
 STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 465  
 中平 晃 300  
 西條 久美子 259  
 広瀬 真理子 240

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 基準日 定時株主総会については3月31日  
 期末配当金受領株主確定日 3月31日  
 中間配当金受領株主確定日 9月30日  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 TEL 0120-094-777(通話料無料)  
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部  
 公告方法 電子公告  
 公告掲載URL <http://www.tocalo.co.jp/>  
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

# TOCALO REPORT 66

中間報告書 2016年4月1日から2016年9月30日まで

豊かな暮らしの中に、トーカロの技術が溢れています。

TOCALO トーカロ株式会社

〒658-0013 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号  
TEL 078-411-5561



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。

TOCALO トーカロ株式会社

証券コード：3433(東証一部)



代表取締役社長  
三船 法行

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、当社第66期中間期(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の事業の状況につきまして、ご報告申し上げます。

### 中間期の連結業績について

中間期の連結業績につきましては、半導体・液晶分野において新規に開発した高性能コーティングの受注が大幅に拡大した前年同期との比較では減収減益となりましたが、引き続き堅調な受注確保により、ほぼ計画通り(対計画比で売上高が1.4%増、経常利益が12.3%増)に推移しております。

売上面では特にティッシュやトイレトペーパー製造用の超大型ロール(一般的にはヤンキードライヤーロールと呼ぶ)の再生コーティング特需や火力発電用ボイラチューブへの耐腐食・耐摩耗コーティングなどが好調ではありましたが、全体としては、前年同期比5億99百万円(4.1%)減の141億41百万円となりました。

損益面では、円高による為替差損や海外子会社の業績が減収となったこと、また労務費や減価償却費などの固定費が増加したため、経常利益は前年同期比4億2百万円(13.5%)減の25億83百万円となりました。

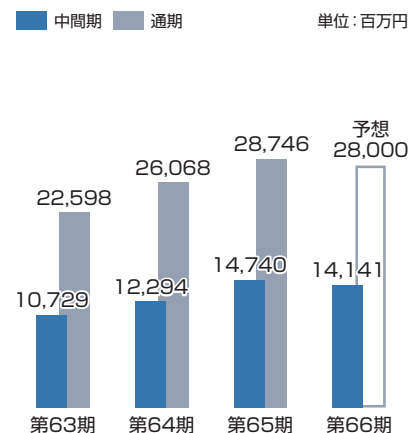
### 今後の業績見通し、舵取りについて

液晶や有機ELなどのフラットパネルディスプレイや半導体産業への中国の戦略的投資拡大およびIoTやビッグデータへの対応に向けた大手半導体メーカーの積極的投資計画を背景に、当社の受注環境は好調に推移するものと予測しています。技術的な対応およびコスト面では厳しいことが予想されますが、計画以上の業績確保が継続できるよう注力します。

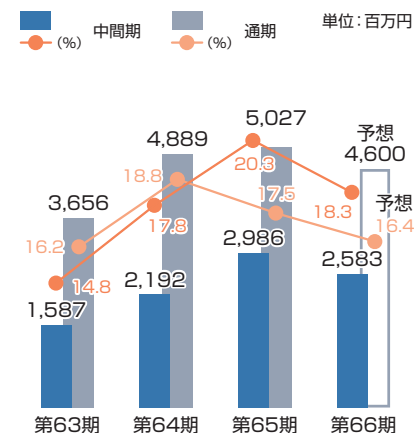
また、半導体・液晶以外の分野でも、航空機・エネルギー・医療関連などで今後の成長が期待でき、新しいアプリケーション開発への投資を積極的に行い、着実に業績拡大を図っていきます。

## 前年同期比では減収減益ですが、ほぼ当期の計画通りに推移しています

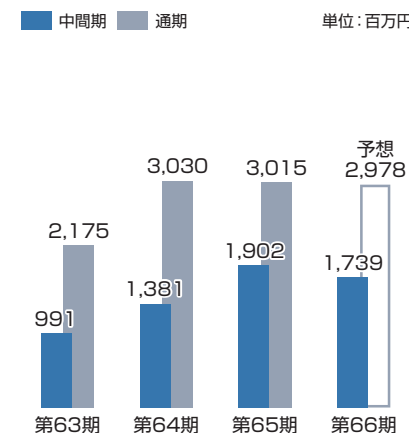
### 売上高



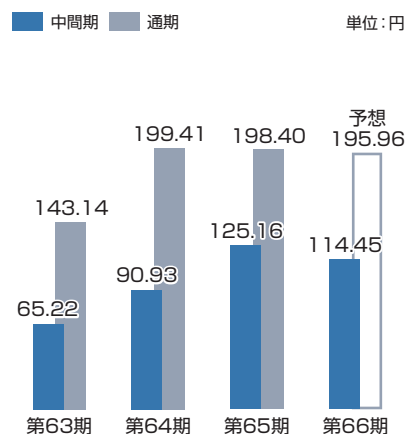
### 経常利益・経常利益率



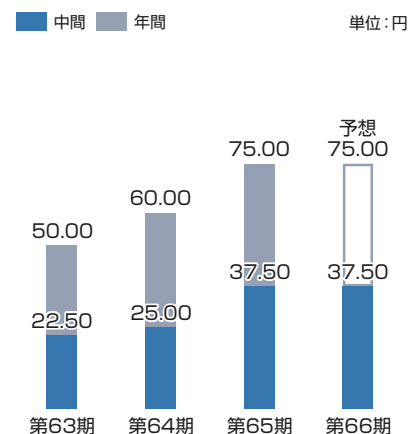
### 親会社株主に帰属する当期純利益



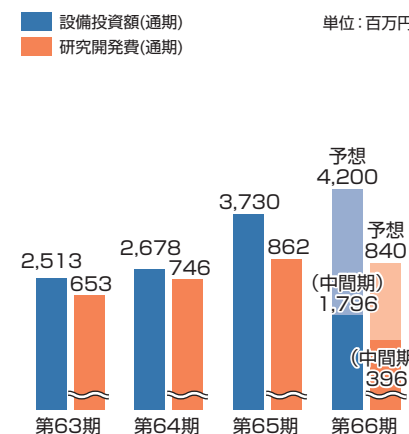
### 1株当たり当期純利益



### 1株当たり配当金

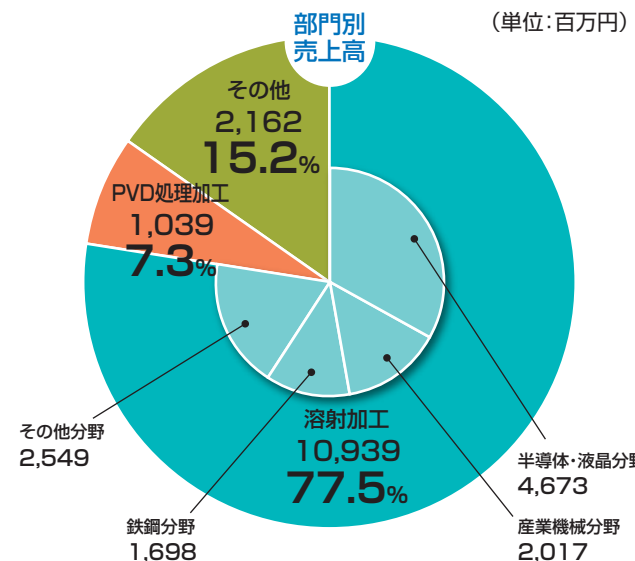


### 設備投資額・研究開発費



〔第66期 中間期〕

売上高 **14,141**百万円  
 経常利益 **2,583**百万円



溶射加工とは

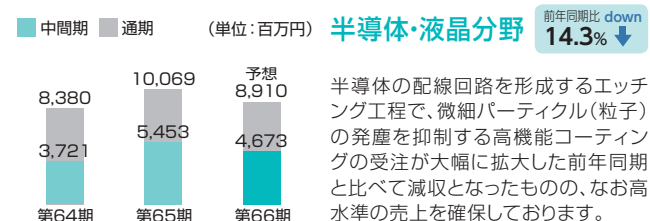
金属やセラミックス、サーメット等のコーティング材料をプラズマやガス炎等の高温熱源で加熱・溶融し吹き付けて皮膜を形成する表面改質法です。耐摩耗性や耐熱性等の耐久性能を向上させたり、導電性や電気絶縁性等の電気的特性を与えたり、遮熱性や放熱性といった熱的特性を与えたりと、様々な機能を付与することができます。

PVD処理加工とは

Physical Vapor Depositionの略で一般的には、物理蒸着法と呼び、真空中でチタン、クロムなどの金属を反応性ガスとともにイオン化し、切削工具、金型など被加工品の表面に、密着力の高い緻密な硬質セラミック薄膜を形成する表面改質法です。耐摩耗性、耐腐食性などの機能を付与することができます。

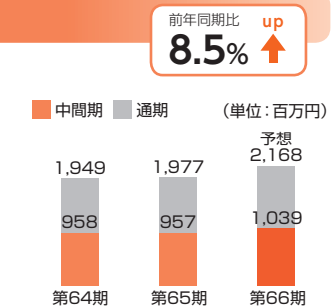
溶射加工

「半導体・液晶分野」および「鉄鋼分野」が前年同期比で減収となったものの、エネルギー関連向けコーティング需要が堅調な「産業機械分野」およびティッシュやトイレトーパーなどの家庭紙製造ライン向けコーティング需要が好調な紙・パルプ産業を含む「その他分野」で増収となり、全体としては小幅な減収に留まりました。

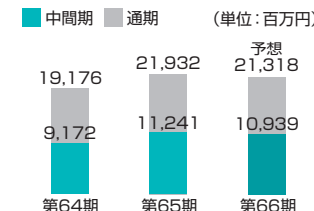


PVD処理加工

自動車需要が堅調に推移しており、自動車部品を切削する工具へのコーティングなどが伸長し、増収となりました。

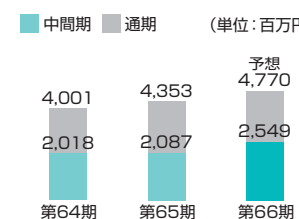
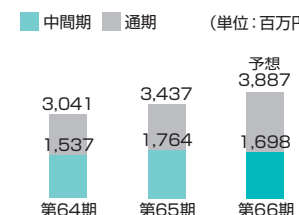


前年同期比 **down**  
**2.7%** ↓



鉄鋼分野

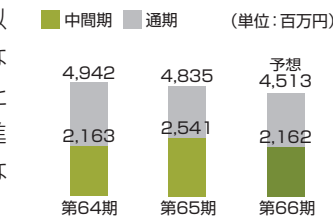
中国発のいわゆる「鉄冷え」により国内生産が低迷する中、油井鋼管などの生産ライン部材類へのコーティングなどが低調で、減収となりました。



その他

(TD(拡散浸透法)、ZAC(化学緻密化法)、PTA(特殊粉末肉盛法)および海外子会社の業績)

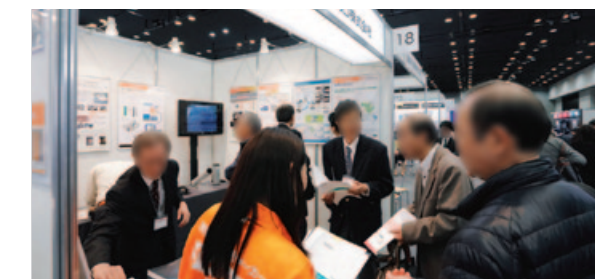
溶射加工・PVD処理加工以外のセグメントでは、主要な海外連結子会社が減収となったことに加え、円高が進行したこともあり、減収となりました。



TOPICS

個人投資家説明会出展のご案内

例年多くの方にお越しいただいている「野村IR 資産運用フェア」に今年も出展いたします。会場では当事業に関するご質問に限らず、技術についてもご紹介いたしますので是非お越しください。  
 日程：2016年12月13日(火)～14日(水)  
 会場：東京国際フォーラム B2F ホールE  
 (昨年と会場が異なりますのでご注意ください。)



昨年の当社ブースの様子

## 高機能セラミック被膜で革新的生産技術、 環境配慮社会に貢献する

日本コーティングセンター株式会社(JCC)は1985年に米国マルチアーク社からイオンプレーティング法に関する技術を導入してスタートしました。お客様から預かりした製品に主に硬質のセラミック被膜を処理してお返しする、セラミックコーティングの受託加工の先駆けでした。以来、「プラズマ技術」、「真空技術」に特化して、高機能セラミック被膜を提供して参りました。現在では、自動車、鉄鋼、非鉄、産業機械、食品、医療等の幅広い産業分野で不可欠な技術となっています。日本の製造業は、新興国の台頭によって厳しいコスト競争に晒されています。これに対して、各社は省力化・高速化を更に進めて、革新的生産技術、新製品で対抗しようとしています。JCCの硬質耐摩耗性被膜、高潤滑被膜、耐腐食性被膜はこのような生産技術、新製品の実現に不可欠です。また、地球環境に配慮した生産活動が既に当たり前の時代となっています。JCCの高機能セラミック被膜は省エネルギー、省資源にも重要な役割を果たし、環境に配慮した社会の実現にも貢献しています。



本社工場

### 日本コーティングセンター株式会社

所在地: 本社 神奈川県座間市 従業員数: 170名  
 資本金: 1億円 事業内容: セラミックコーティング、DLCコーティング、ラジカル窒化処理  
 設立: 1985年4月  
 事業所数: 3工場、5営業所



代表取締役社長 千葉 祐二

当社は昨年創立30周年を迎えました。当初より、プラズマCVDの開発、DLCの開発、スムーズアークコーティングの開発等の他社との共同開発や大学との共同研究も積極的に行ってきました。「常に新しい技術を追求し吸収していく」、そういう姿勢が脈々と受け継がれている、これこそがJCCの本当の強さであると考えます。結果として、プライム、マーキュリーW等の切削工具向け



セラミックコーティング「ヴィーナス」処理をした金型

被膜やCrN、ヴィーナス等の金型向け被膜の多くは業界に先んじて提供してきました。また、Jcoa t+αのような複合処理はJCCが提唱してきたコンセプトですが、今では業界標準となっています。トーカロ(株)の社是の中に「技術とアイデア」があります。JCCがこれから先も業界をリードしていくキーポイントも「技術とアイデア」にあると考え、技術開発に積極的に取り組んで参ります。

## What's トーカロ

### トーカロの溶射はすごいぞ! 溶射技術で新幹線も安全運行!



\*セラミックスは、耐熱性、耐摩耗性、電気絶縁性に優れています。